

# 普代中学校・人権講演会

## 思い出を書ける中学時代に

七月五日、普代中学校（寺林拓也校長・生徒百二十一人）では、「身近なことから人権を考えてみよう」と題して、盛岡法務局宮古支局・子ども人権専門委員の武田勤さん（宮古市）をお招きして、講演会を開きました。

同講演会は、人権を考える作文の募集依頼が同校にあったことをきっかけに企画。村人権擁護委員の佐藤勲さん（緑区）、熊谷栄子さん（堀内）、和村淑子さん（中央区）も同席して生徒らと講演に耳を傾けました。武田専門委員は、自己紹介の後、平成九年七月に策定された「人権教育のための国連十年」は国内行動計画で、家庭、学校、職場、地域社会など普段から人権とは何かを考え、人権尊重の意識を高めることが強く求められています。と口火を切りました。

「人間が一番辛いと感じるのは一人になったときで、孤独は死にたいと思う気持ちを誘います。特に思春期は日々心が成長していて、仲間はずれや無視されることには耐えられないような心の傷を負います。『いじ

め』は『受けた本人がいやだ』と感じる、これが基準です。過去の悲惨な事件（学校時代にいじめを受けたA君は、卒業後開かれた同窓会で、いじめをしていたB君を刺し殺してしま



真剣なまなざしで、人権問題に身を傾ける生徒ら

いさつを覚え、クラブの中で人の前で話す訓練をしましょう。相手に伝えることができれば心にわかまりができません。あいさつに「おかげさまで」という言葉があります。この「おかげさまで」が持つ言葉の偉大さは、手をつなぎあつてともに生きてきたことや生きることへの意味が含まれています。

人と人とのつながりを大切に思い出を書ける中学時代であつて欲しい。優しさをこめてきつぱりと「おかげさまで」と結び、講演を終えました。

寺林校長は「給食後の午後、自然とまぶたが重くなる時間の講演会で生徒たちは大変だろうと思いましたが、講師先生の話をも自分のものとしてよく聴き、講演後の感想では人権尊重の決意や自己の行動の反省がみつづられていました。

つた）を例にあげ、「悔しさは、その月その年に解決し、よい思い出は永く持ち続けるようにしましょう。そうした思いをいつか語れる日がきつときます。日本人は人の前で話をするこ

とが不得意ですが、『はいくだと思いません』これだけでも心に決めておいて話すようにしましょう。そうしてクラブの中であ

# 119が優勝!

## 第46回国保旗争奪野球大会



昨年が続いて優勝したFire 119

四十六回目を迎えた国民健康保険旗争奪野球大会が、六月十八日、北緯四十度運動公園野球場と村民グラウンドで行なわれました。職場、職域から昨年と同じ九チームが参加し、熱戦を展開しました。決勝は、Fire

119（久慈広域消防署チーム）が三陸水産を10-4で下し、昨年に続いて優勝しました。Fire 119は、一回戦J A青年部を五回コールド12-0、準決勝では、パイヤA（しんくろまつ）を六回コールド

ド11-2と下し決勝に進みました。

一方の三陸水産は、普代村漁協と対戦し8-4で初戦突破。準決勝ではマイホームズに五回コールド11-3で勝利。決勝に進みました。

最優秀選手賞には、119の東潤一投手が選ばれました。昨年に続いて最優秀選手賞に選ばれた東投手は「仲間の皆さんのおかげで最優秀選手賞をいただくことができました」と、うれしそうに語ってくれました。

